

(埼玉県委託事業)

令和4年度

薬局のかかりつけ機能強化推進事業

報告書

認知症対応薬局の推進

令和5年3月

一般社団法人埼玉県薬剤師会

目 次

1. 背景	P. 1
2. 目的	P. 1
3. 令和4年度埼玉県薬剤師認知症対応力向上研修会の実施	P. 1
4. アンケート調査の実施	P. 1
5. アンケート調査の結果	P. 2
6. 考察	P. 9
※ 資料	P. 10

令和4年度埼玉県薬剤師認知症対応力向上研修会アンケート

1. 背景

平成 27 年 1 月に厚生労働省が策定した「認知症施策推進総合戦略」（新オレンジプラン）では、認知症の人の意思が尊重され、出来る限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることが出来る社会の実現を目指している。

対面による服薬指導や医薬品販売、店頭でのさまざまな相談など、高齢者と接する機会が多い薬剤師が、認知症の疑いがある人に早期に気づき、かかりつけ医等と連携して対応するとともに、認知症の人の状況に応じた服薬支援や指導等を適切に行い、認知症の人の生活を支えることが重要になってきている。

平成 28 年度以来、「埼玉県薬剤師認知症対応力向上研修会」を毎年開催してきたが、今年度も引き続き、「患者のための薬局ビジョン」に掲げる「かかりつけ薬剤師・薬局」の充実及び普及を推進する観点から、認知症に対応できる薬剤師の育成強化を図るため、具体的な事例検討（スモールグループディスカッション）を含めた研修会を実施することとした。

2. 目的

薬局薬剤師が認知症の疑いのある人に早期に気づき、医療機関等につなぎ、かかりつけ医をはじめとする他職種と連携し、患者や家族を支える役割を果たすことを目的として、認知症に対応できる薬剤師の育成強化を図る。

3. 令和 4 年度埼玉県薬剤師認知症対応力向上研修会の実施

下記のとおりオンライン形式で 1 回実施した。

研修内容は、一般社団法人埼玉県医師会から推薦された認知症サポート医と埼玉県薬剤師会所属の薬剤師を講師とした講義形式の研修に加えて、関連動画の放映、実践形式の研修としてグループワーク（事例検討）を実施した。

対象者は、県内で勤務（開設を含む）する薬剤師とし、42 名が修了した。

日程：令和 4 年 11 月 6 日（日）

形式：zoom を使用したオンライン形式

内容：(1) 基本知識及び地域・生活における実践について（90 分）

自治医科大学附属さいたま医療センター 講師 崎山 快夫

(2) かかりつけ薬剤師の役割について（30 分）

（一社）埼玉県薬剤師会 社会保険委員会 委員 吉川 陽子

(3) 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン（動画）（17 分）

(4) 事例検討（薬局業務における実践）（100 分）

（一社）埼玉県薬剤師会 理事 関口 直邦

4. アンケート調査の実施

令和 4 年度薬剤師認知症対応力向上研修会受講者を対象に、研修会終了時に研修会の

効果を検証するためのアンケート調査を実施した。

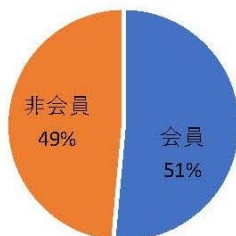
5. アンケート調査の結果

受講者 42 名中 35 名から回答があった。

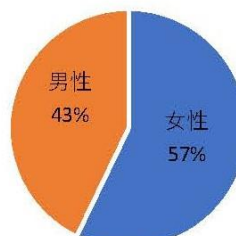
Q1. 埼玉県薬剤師会会員区分

会員	18
非会員	17

Q1 埼玉県薬剤師会会員区分



Q2 性別



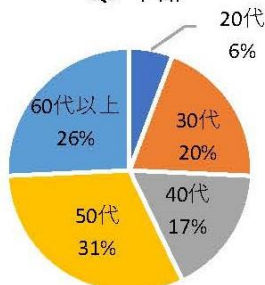
Q2. 性別

女性	20
男性	15

Q3. 年齢

20代	2
30代	7
40代	6
50代	11
60代以上	9

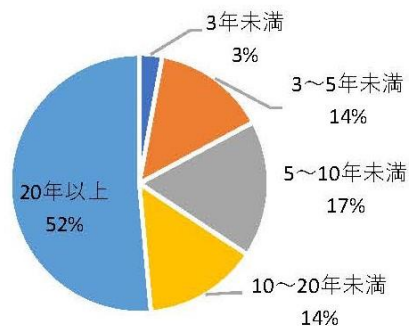
Q3 年齢



Q4. 経験年数

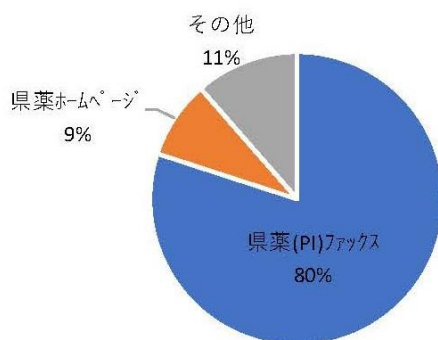
Q4. 経験年数

3年未満	1
3～5年未満	5
5～10年未満	6
10～20年未満	5
20年以上	18



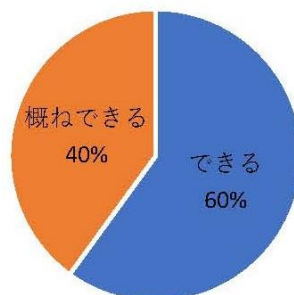
Q5. 研修会を何で知ったか?

県薬 (PI) ファックス	28
県薬ホームページ	3
その他	4



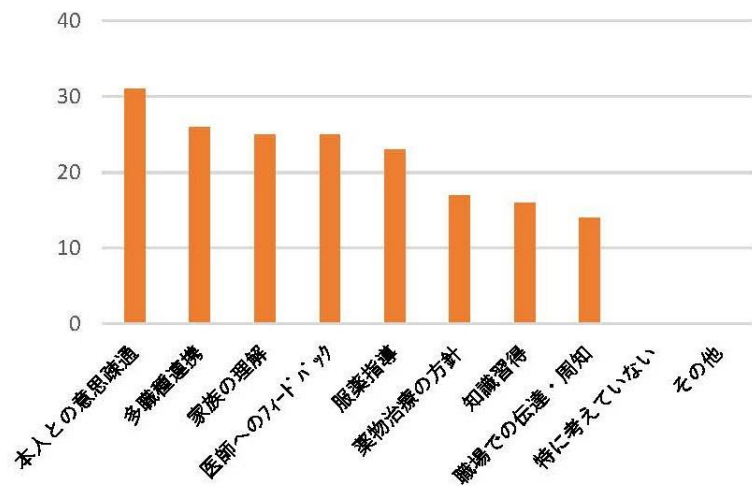
Q6. 業務に役立てることが出来ますか?

できる	25
概ねできる	10
できない	0



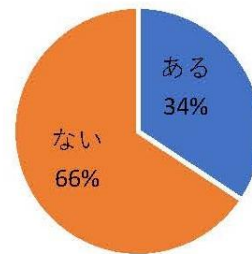
Q7. 明日からどのような行動をしようと考えているか？（複数回答可）

本人との意思疎通	31
多職種連携	26
家族の理解	25
医師へのフィードバック	25
服薬指導	23
薬物治療の方針	17
知識習得	16
職場での伝達・周知	14
特に考えていない	0
その他	0



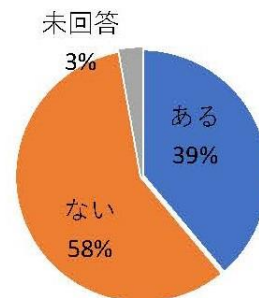
Q8. 地域ケア会議の参加歴

ある	12
ない	23



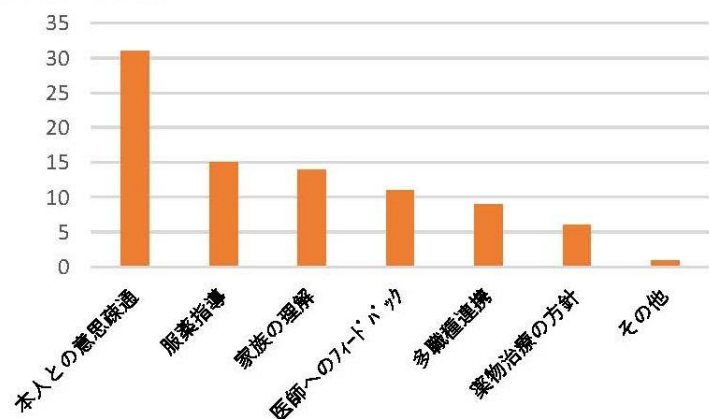
Q9. 認知症サポーター養成講座の受講歴

ある	14
ない	21
未回答	1



Q10. 認知症患者の対応で苦慮すること（複数回答可）

本人との意思疎通	31
服薬指導	15
家族の理解	14
医師へのフィードバック	11
多職種連携	9
薬物治療の方針	6
その他	1

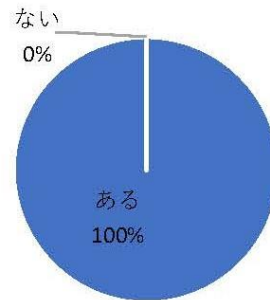


※その他の理由

薬剤師を頼りにしていただくことはありがたいですが、訪問すると薬局に帰してもらえません。また、食事がなく餓死すると電話があり、食事をもっていっても、カードが期限切れで支払ってもらえなかったことがあります。電話連絡も一方通行でかからず、訪問すると鍵がかかり入室できずにいました。ケアマネさんに報告し、家に入ってもらい、脱水・栄養不足で家の片隅で倒れていて救急搬送し、結局、入院し今に至ります。今回の事案は、薬剤師がどこまで介入したらいいか不明の事案でした。

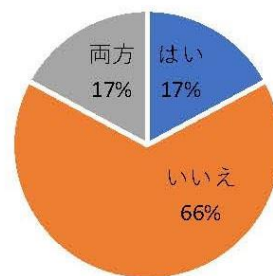
Q11. 日常業務で認知症患者に対応したことがあるか

ある	35
ない	0



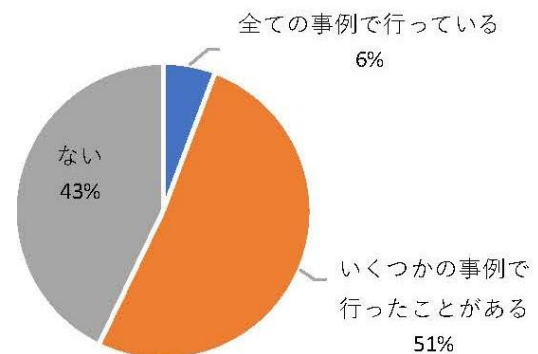
Q12. その患者はかかりつけか

はい	6
いいえ	23
両方	6



Q13. 認知症患者の対応に際し、他職種との連携、調整を行ったことがあるか

全ての事例で行っている	2
いくつかの事例で行ったことがある	18
ない	15



Q14. 日常業務で認知症患者に対応した事例

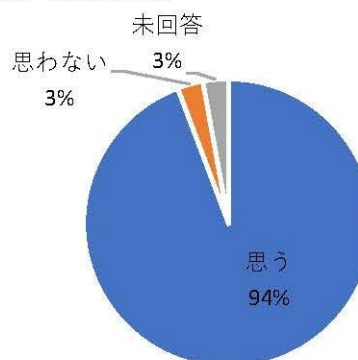
1	残薬調整での医師、ケアマネ、訪問看護師への情報提供（40代 男性）
2	在宅患者で服薬管理方法を担当ケアマネジャー、ヘルパーへ相談。さまざまな方法を試して改善が見られた。（30代 男性）
3	一包化でカレンダー記載していても、残薬がたくさんある状況。 お話が辻褄が合わなくて会話にならない患者様など（50代 男性）
4	軽度認知症であったため、服薬指導後、次回家族の同行を説明し、教えていただいた家族への連絡先に本日の様子とお薬の説明、家族によるお薬の確認を依頼し、了承されました。（50代 女性）

5	<p>認知の診断はまだない方のお話です。処方薬に下痢止めが出てるのですが、最近になり便秘がひどくなりました。そして排便を自分でしてしまい、肛門の中に傷を作っていました。介護職から処方薬に問題があるのではないかと連絡があり医師へ情報提供。ただ、便秘と下痢を繰り返してるからなと渋い感じ。どこを妥協点と置くか難しく、いつもはしない行為に驚き認知の方も考慮しながら処方を見守ることが良いのかなと思ってます。なかなか処方の検討まで考えると生活背景など細かいところまで考えなければいけないのかなと今回の研修を通じて思いました。（40代 男性）</p>
6	<p>家族への服薬指導（60代以上 男性）</p>
7	<p>かかりつけ薬局⇒かかりつけ薬剤師⇒在宅医療（服薬管理等）⇒多職種連携へ⇒自立不可能⇒施設へ（60代以上 男性）</p>
8	<p>薬の飲み忘れが多い患者様のケアマネージャーさんからの依頼で在宅対応にて服薬管理しました。（40代 女性）</p>
9	<p>地域のオレンジカフェへの参加推奨を行った（30代 女性）</p>
10	<p>処方箋を持って帰ってしまった患者から病院に連絡あり（この紙は何だろうかと病院にTEL）→その後の来局時の対応もちょっとおかしい（その時で当薬局の利用は2回目）。一包化を病院にお願いし、一包化して帰ってもらったが、聞き取りで独居等がわかり、不安の為、包括等にケアマネがついているか確認。介護申請をしていないことがわかりそこから介護申請→ケアマネが付き病院に在宅訪問指示をもらい在宅訪問。ヘルパーやデイサービス等と連携を取りコンプライアンスの向上。同様に認知症が疑われる患者様は十数件包括等に連絡をし、患者様やその家族に負荷のかからないように対応。役所や包括からは「困っている方が大勢いるのはわかっているが誰が困っているかわからない。病院や薬局から情報を提供していただくのが一番良いとの事。大変助かる。これからもよろしく願いいたします」とよく言われました。（50代 男性）</p>
11	<p>夫婦とも認知症の患者であまり薬が出ていないので今のところなんとかなっていますが今後どうなっていくのか注意しています（60代以上 男性）</p>
12	<p>財布に小銭がいっぱい入っているのに、お札で会計をされる方。ご自分でも忘れっぽくなったと口にはしているが、認知症治療薬が出ているわけではないので、そちらの診察をどう勧めるべきかと思案中の方がいます。（40代 女性）</p>
13	<p>服薬できていないことをごまかそうとする。プライドがあり、残薬が多いのに、一包化の提案を承知しない。（60代以上 女性）</p>
14	<p>一包化していてもお薬がきちんと服用できていなくて家族のご協力をお願いした（50代 女性）</p>
15	<p>基本、飲み忘れが多い。こちらが言っていることを理解してもらえない等。（50代 男性）</p>
16	<p>患者様の話に最後まで耳を傾ける（50代 女性）</p>
17	<p>認知症の家族がいるために苦労しているご家族からの話を聞くことが多いです。最初は言葉少なめですが、話すことでスッキリするのか笑顔になって帰られる方もいて、地域</p>

	<p>として認知症の本人だけでなく家族の方の支援も大切だと感じます。 (50代 女性)</p>
18	<p>毎日制吐剤を求めてやってくる患者様がいる。当薬局を含め複数の病院・薬局に頻繁に受診、電話しているとのこと。地域包括支援センターにも一時期連絡があったそうだが、旦那様もいるとのこととで手出しができない状態とのことだった。 (30代 男性)</p>
19	<p>一人で来局し、しっかり飲んでいるとお答えいただき、残薬はないと答えられますが、本当のところはわかりません。そんな時に、第三者を立てて確認したほうがいいのか、本人の意見を尊重したほうがいいのか不安になります。かかりつけ薬剤師の契約を話しますと、料金がかかることで契約を断られます。契約せずに訪問・残薬確認・検査値を確認している方がいます。(60代以上 女性)</p>
20	<p>受診日(予約日)や診察時間が分からず薬局に薬が欲しいと来局。地域包括センターのオレンジカフェも利用している患者さんだったので、カフェの利用時にも受診の日時を伝えてもらう依頼し受診できた。(50代 女性)</p>

Q15. まだ当研修を受講していない薬剤師に受講を勧めようと思うか

思う	33
思わない	1
未回答	1



Q16. 研修会の感想

1	<p>認知症の患者さんに接する対応について振り返りと気づきが出来た。ポリファーマシーでの対応について他の薬剤師の意見も聞いて参考になった。(40代 男性)</p>
2	<p>ディスカッションでは色々な方の意見が聞いてよかったです。認知症患者様の意向を1番に大切にしながら業務を行いたいと思います。(30代 女性)</p>
3	<p>ありがとうございました。(50代 男性)</p>
4	<p>大変勉強になりました。できれば対面でワークショップできたら良いのと思いました。(50代 男性)</p>
5	<p>認知症の罹患率を考えると、毎日の患者さんの中にもっと隠れている可能性が高いと感じました。少しでも気づけるように意識して接していきたいと思います。(40代 女性)</p>
6	<p>認知症患者への介入方法が多方向からあることがわかりました。(50代 女性)</p>

7	認知症患者さんの意思を尊重することの大切さを再確認できました。 (60代以上 男性)
8	非常に勉強になりました。明日からでも使えることばかりで、業務の視点が変わったように感じます。ありがとうございました。(40代 男性)
9	SGDでの多くの意見を知ることができて有意義でした。通信状況の改善を望みます。(60代以上 男性)
10	認知症の患者さんに、寄り添うこと、患者さんと家族の立場になって、ポリファーマシーの解消や、困り事を一緒に考えることなど、薬剤師として、すべき事を改めて考える良い機会になりました。(50代 女性)
11	グループワークは、大変大きな学びになりました。(コロナ禍でなかなか離れた地域の薬局との交流が少なくなった為)⇒実際にこういう考え方もあるのか??見ないな学び!!(60代以上 男性)
12	認知症そのものに対する知識や患者様の気持ちへの理解がまだまだ自分には足りないと思いました。今後もこのような機会ですべて深めていけたらと思います。グループワークは多方面からの視点や気づきがあり、とても有意義でした。(40代 女性)
13	色々な方のお話を聞くことができ、少しは見聞を広げることができたかなと思っております。ありがとうございました。(30代 女性)
14	崎山先生の講演が途切れてしまった事が残念でしたが、いただいた資料を読み返したいと思えます。コロナ禍でのマスク着用により患者さんの表情が見えづらい、仕切り板で互いに声が聴き取りづらいなどありますが、患者さんやご家族の何気ない会話や行動をよく観察してまずは「気づき」の出来る薬剤師でありたいと思えます。本日はありがとうございました。(30代 女性)
15	多業種連携の会議も行っていただき、薬局ができる事、他の業種が何を求めているか等を知りたい(50代 男性)
16	講義を聞くだけでなくディスカッションの時間も大変有意義な研修会でした(60代以上 男性)
17	グループワークでの意見交換は有意義でした(60代以上 男性)
18	認知症はこれから付き合いざるを得ない疾患で、本人の意思・希望を優先すること、多職種連携を意識して行うべきと再確認しました。(40代 女性)
19	実際の動画や事例検討は、参考になりました。よくある事例が実は認知症の兆候であることも知ることができました。ありがとうございました。(60代以上 女性)
20	初めて勉強会に参加し、グループワークも初めての経験だったのですが、他の先生方のご意見を聞いて今後の業務に役立てることができると思いました。とても有意義な時間を過ごせました。自分の勉強不足も認識できたのでまた機会があれば学びたいと思えました。(50代 女性)
21	認知症疑いへの、「気づき」など、参考になりました。ポリファーマシーでの、医師へのアプローチの仕方なども、大変参考になりました。(50代 男性)

22	<p>認知症が疑われる患者さまをかかりつけ医 認知症患者さまやポリファーマシーについて、かかりつけ医や他職種の方たちにどのようにコンタクトをとればよいのか迷いがありましたが、他の薬剤師さんの意見を聞くことができ、とても参考になりました。</p> <p>(50代 女性)</p>
23	<p>これから増えていくであろう認知症患者への対応を学びたくて本研修に参加しました。私自身はかかりつけ薬剤師業務を行ったことがなく、地域連携の方法も今一つ理解できていなかったのですが、本日実際に取り組まれている多くの皆さんのお話を聞くことができ、具体的な方法が見えてきてとても勉強になりました。</p> <p>(50代 女性)</p>
24	<p>認知症患者に対する対応がしっかりと知れたことはよかったですと思います。困ったことがあれば地域包括支援センターへ連絡して活用してみようと思いました。</p> <p>(30代 男性)</p>
25	<p>地域の違う他の世代の薬剤師の意見が聞けて大変参考になりました。</p> <p>(60代以上 女性)</p>
26	<p>ズーム受講ではありましたが、グループワークで他薬局の方々と事例の問題解決を話し合うことで受動的な講義のみでは無く良かった。今後の認知症患者を支えるワンパワーとして薬剤師の対応向上の重要性を学ぶことができた。(50代 女性)</p>
27	<p>資料や実際の事例などもわかりやすく、すぐに現場で生かせる内容だと感じました。</p> <p>(30代 女性)</p>

6. 考察

研修会参加者は、経験年数別にみると経験年数が10年以上の参加者数が約7割であり、今後は経験年数の浅い薬剤師にも参加してもらえるような周知が必要と思われた。

研修の内容については、回答した全ての薬剤師が、明日からの業務に役立てることができ、もしくは概ねできると回答し、研修後の感想からも、スモールグループディスカッションでの討議により、様々な意見を聞くことで、より理解度が深まり、参加した薬剤師の資質向上に一定以上の効果が得られたのではないかと考えられる。

日常業務における認知症患者への対応について、回答者全員が対応したことがあると回答したが、他職種と連携したことがないと回答したのが約4割を占めた。これについては、引き続き、他職種との連携を推進するための支援が必要であることが示唆されたが、明日からどのような行動をしようとするかとの問いに対し、「多職種連携」を選択したのが7割以上となったことから、今回の研修をきっかけに、多職種連携に対する意欲が向上したと思われる。

認知症患者と気づいた場合であっても、本人との意思疎通に苦慮するケースが多いことから、その場合の対応策等についても、事例をまじえ、情報提供していくことが有用であると考えられる。

地域ケア会議に関しては、7割近くが参加したことがないと回答しており、薬剤師が参画できるような体制の整備が必要であると思われる。認知症サポーター養成講座を受講した割合も半数以下であり、これらについては今後も啓発活動を行うことが重要であると考えられる。

今後も、埼玉県内の全ての薬局で認知症患者に対応できるよう、1薬局に1名は同研修を受けた薬剤師が在籍するような体制を目指して、継続的に研修会を開催し、かかりつけ薬剤師・薬局として認知症患者や家族を支えられる薬剤師を育成していく必要がある。

令和4年度埼玉県薬剤師認知症対応力向上研修会 アンケート

あてはまるところにチェックしてください。

1. 埼玉県薬剤師会会員区分

会員 非会員

2. 性別

男性 女性

3. 年代

20代 30代 40代 50代 60代以上

4. 薬剤師としての経験年数

3年未満 3年～5年未満 5年～10年未満
 10年～20年未満 20年以上

5. この研修会を何で知りましたか？

県薬ファックス(PIファックス) 県薬ホームページ その他

6. 本日の研修を明日からの業務に役立てることができますか？

できる 概ねできる できない

7. 本日の研修を受講し、明日からどのような行動をしようと考えていますか？(複数回答可)

本人との意思の疎通 家族の理解 医師へのフィードバック 服薬指導
 多職種連携 薬物治療の方針 知識習得 職場での伝達・周知
 特に考えていない その他()

8. 地域ケア会議に参加したことがありますか？

ある ない

9. 認知症サポーター養成講座を受講したことがありますか？

ある ない

10. 認知症患者と対応で苦慮することは何ですか？(複数回答可)

本人との意思の疎通 家族の理解 医師へのフィードバック 服薬指導
 多職種連携 薬物治療の方針 その他()

11. 日常常務で認知症患者に対応したことはありますか？

ある ない(「ない」の場合、問15へ)

12. その患者はかかりつけですか？

はい いいえ かかりつけの患者とそうでない患者両方

13. 認知症患者の対応に際し、多職種との連携、調整を行ったことがありますか？

すべての事例で行っている いくつかの事例で行ったことがある ない

14. 日常の業務で認知症患者に対応した事例(成功例や困っている事例など)

[

]

15. まだ、認知症対応力向上研修を受講していない薬剤師に受講を進めようと思いますか？

思う 思わない(理由:)

16. 研修会の感想

[

]